

こくろう秋田

迎春



国鉄労働組合
秋田地方本部
(秋田市中通
7-2-21
018-832-3775)

発行責任者
瀬下 一司
編集責任者
佐藤 浩一

年頭にあって 執行委員長 瀬下一司

組合員、家族のみならず。

新年明けましておめでとございます。
2008年の年頭にあって一言ご挨拶申し上げます。

先の参議院選挙では自民党が歴史的敗北を喫しました。これは、自公政権が推進してきた「構造改革」という名の庶民増税や貧困と格差の政治に対する国民の怒り、教育基本法改正、国民投票法案強行など強権姿勢に対する国民の怒りの結果だろつと思えます。

福田政権の下では、テロ特措法を始め、与野党対決の構図がいつそう際立ってきていますが、一方では被災者支援法や障害者自立支援法改正、地域別最賃引き上げ、薬害肝炎問題などに象徴されるように、私たちの闘い如何によっては一定の前進を勝ち取ることができる条件も生まれてきています。

昨年11月、JR東日本との係争事件において一括和解が成立しました。これを大きな中間到達点として今後の差別根絶と組織拡大に結びつけていかなければなりません。

地方本部においては乗務員職場を中心に、和解の成果が具体的に現れていないという状況もあります。和解の趣旨・内容を現場末端まで浸透させるような取り組みの強化が求められています。また、JR東日本においてはJR内労働組合と会社との関係でかつてない緊張感が生まれています。私たちは他労組の動向に一喜一憂することなく、現場の労働者の気分・要求に依拠した運動を地道に展開していくことが重要だろつと思えます。

東日本本部では和解以降21名の組織拡大がされ、地方本部でも一名の組織復帰がありました。地本の現状を考えれば組織拡大は喫緊の課題となっています。要求実現の担い手としての国労の存在を更にアピールして

いくことが重要です。

国労の最大課題である「JR不採用事件」については、「4者4団体」によるILOに対する要請行動や関係省庁に対する要請行動、「4者4団体の枠組みを堅持し、総団結・総決起によるJR不採用事件の早期解決実現」をスローガンに各県一集会などの大衆行動を展開し、11月30日の中央集会を7300名の規模で成功させました。昨年7月25日に結審した全動労裁判の判決は今年23日に下されます。判決内容は今後の解決水準に重要な影響を及ぼすものであります。

JR不採用から21年目に入って闘い続けている仲間たちの辛苦を思う時、一日も早い解決を何としても実現しなければなりません。地方本部としても本部の提起に応え、解決に向け奮闘する決意です。

職場においては、業務外注化や機械化による人減らしと労働強化、技術力の継承問題、出向先の労働条件改善の課題など、旅客、貨物を問わず組合所属を越え、多くの課題が渦巻いています。JRに働くすべての労働者を視野に入れた「職場総点検運動」や「安全総点検運動」を職場活動の中心に据えて取り組むことが求められています。

課題は山積みですが、組合員の知恵と力を借りながら精いっぱい奮闘する決意です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年あけましておめでとうございます

- | | |
|--------|-------|
| 執行委員長 | 瀬下 一司 |
| 執行副委員長 | 伊藤 政利 |
| 執行副委員長 | 神谷 長一 |
| 書記長 | 渡邊 敦 |
| 執行委員 | 久米 竜一 |
| 執行委員 | 小林 昭宏 |
| 執行委員 | 高橋 毅 |
| 執行委員 | 佐藤 浩一 |
| 会計監査員 | 保坂 純一 |
| 会計監査員 | 佐野 誠司 |
| 書記 | 渡辺 敏男 |
| 書記 | 今野 純子 |